

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
平成30年6月25日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県小牧市本庄白池 811-1	
氏 名 株式会社ファーストフーズ名古屋	
代表取締役社長 早川津富	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 0568-79-0233	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社ファーストフーズ名古屋 小牧工場
事業場の所在地	愛知県小牧市本庄白池 811-1
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
1 事業の種類	09：製造業／食品製造業
2 事業の規模	売上高：576,460万円／年
3 従業員数	404名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	食品製造業 食品製造工程：動植物性残渣→再生処理業者に委託して再資源化（飼料） 廃プラスチック類→再生処理業者に委託して再資源化 金属くず（缶）→再生処理業者に委託して再資源化 排水処理設備：汚泥→再生処理業者に委託して再資源化（堆肥）

(第 2 面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 生産技術部 技術部 施設管理課長（廃棄物処理統括責任者）			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
1 状	【前年度（平成 2 9 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		

		産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
		(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
1 状	【前年度（平成29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
1 状	【前年度（平成29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
	全処理委託量	t	t	
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	

			再生利用業者への 処理委託 量	t	t
			認定熱回収業者への 処理委託 量	t	t
			認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託 量	t	t
		(これまでに実施した取組)			

(第 5 面)

	②計画	【目標】			
		産業廃棄物の種類	別紙のとおり		
		全処理委託 量	t	t	t
		優良認定処理業者への処 理委託 量	t	t	t
		再生利用業者への 処理委託 量	t	t	t
		認定熱回収業者への 処理委託 量	t	t	t
		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託 量	t	t	t
		(今後実施する予定の取組)			

※事務処理欄	
--------	--

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ① 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ② 欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④ 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
ー 現 状	【前年度（平成 29 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	排出 量	893 t	850 t	399 t	27 t
	(これまでに実施した取組) 製造工程で発生するロス（廃棄物）を削減。歩留まりをあげ、廃棄物を減らす。				
㊦ 計 画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	排出 量	850 t	800 t	350 t	25 t
	(今後実施する予定の取組) 予想生産数量を減らし、過剰生産により廃棄物を減らす。 廃棄汚泥の含水率を下げ、排出量を削減する。				
産業廃棄物の分別に関する事項					
㊦ 現 状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、廃プラスチック類、金属くず、汚泥に分別し、保管している。				
㊦ 計 画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣を野菜くずと以外に分別する。				

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項					
一 現 状	【前年度（平成 29 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。				
⑤ 計 画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない。				
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項					
	【前年度（平成 29 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t

	(これまでに実施した取組) 特に実施していない。				
⑤計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない。				

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項					
ー現状	【前年度（平成 29 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。				
	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	自ら埋立処分又は	0 t	0 t	0 t	0 t

② 計 画	海洋投入処分を行 う 産業廃棄物の 量				
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はない。				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

ー 現 状	【前年度（平成 29 年度）実績】				
	産業廃棄物の種 類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず
	全処理委託 量	893 t	850 t	399 t	27 t
	優良認定処理業者 への 処理委託 量	0 t	850 t	0 t	27 t
	再生利用業者へ の 処理委託 量	893 t	0 t	399 t	0 t
	認定熱回収業者へ の処理委託 量	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 可能な限り再生処理業者への処理委託を行い、最終処分量を低減ははかる。				

	【目標】				
	産業廃棄物の種 類	動植物性残渣	廃プラスチック類	汚泥	金属くず

② 計 画	全処理委託量	850 t	800 t	350 t	25 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	800 t	0 t	25 t
	再生利用業者への 処理委託量	850 t	0 t	350 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 既存分別品での優良認定処理業者を選定する。 分別の種類を増やし、優良認定処理業者の割合を増やす。 委託先処理業者には、定期的に実地確認を実施する。 価格が適正化定期的に他社の情報を入手する。				